

ページ	正	誤								
P53	<p>12-10-1 工事用電灯、電力設備費 通常一般の設備で坑口付近において受電する場合に適用するものとして、受電点が遠隔地にある場合は坑口付近までの配電設備負担金等の費用は別途加算するものとする。 トンネル1m当り工事用電灯、電力設備費（円/m） =E/L₁ 上式中 L₁ : トンネル延長…………… (m)</p>	<p>12-10-1 工事用電灯、電力設備費 通常一般の設備で坑口付近において受電する場合に適用するものとして、受電点が遠隔地にある場合は坑口付近までの配電設備負担金等の費用は別途加算するものとする。 トンネル1m当り工事用電灯、電力設備費（円/m） =E/L₁ 上式中 L₁ : トンネル延長…………… (m)</p>								
P54	<table border="1" data-bbox="439 541 1433 615"> <thead> <tr> <th>トンネル延長</th> <th>工事用電灯、電力設備費（万円）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0km～3.0km未満</td> <td>$E = 691 + 490 \times L_2 + 95.4 \times L_2^2 + 129 \times M$</td> </tr> </tbody> </table> <p>上式中 E : 工事用電灯、電力設備費…………… (万円) L₂ : トンネル延長…………… (km) M : 掘削開始から覆工完了までの月数…………… (月) (注1) 斜坑・横坑に引き続いて本坑を施工する場合は、Lは本坑延長に斜坑・横坑の延長を合算し、Mは斜坑・横坑の掘削開始からとして上式にて算出する。 (注2) 撤去に伴うコンクリート処分費（13m³）は必要により別途計上する。</p>	トンネル延長	工事用電灯、電力設備費（万円）	0km～3.0km未満	$E = 691 + 490 \times L_2 + 95.4 \times L_2^2 + 129 \times M$	<table border="1" data-bbox="1700 541 2694 615"> <thead> <tr> <th>トンネル延長</th> <th>工事用電灯、電力設備費（万円）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0km～3.0km未満</td> <td>$E = 691 + 490 \times L_2 + 95.4 \times L_2^2 + 129 \times M$</td> </tr> </tbody> </table> <p>上式中 E : 工事用電灯、電力設備費…………… (万円) L₂ : トンネル延長…………… (km) M : 掘削開始から覆工完了までの月数…………… (月) (注1) 斜坑・横坑に引き続いて本坑を施工する場合は、Lは本坑延長に斜坑・横坑の延長を合算し、Mは斜坑・横坑の掘削開始からとして上式にて算出する。 (注2) 撤去に伴うコンクリート処分費（13m³）は必要により別途計上する。</p>	トンネル延長	工事用電灯、電力設備費（万円）	0km～3.0km未満	$E = 691 + 490 \times L_2 + 95.4 \times L_2^2 + 129 \times M$
トンネル延長	工事用電灯、電力設備費（万円）									
0km～3.0km未満	$E = 691 + 490 \times L_2 + 95.4 \times L_2^2 + 129 \times M$									
トンネル延長	工事用電灯、電力設備費（万円）									
0km～3.0km未満	$E = 691 + 490 \times L_2 + 95.4 \times L_2^2 + 129 \times M$									

種 別		算 式		単 位	パ タ ー ン IV		摘 要
掘削断面積		A		m ²	70.13		インバートの発破対象断面積は、インバート+中央集水管の断面積の60%とする。
1 発破進行		B		M	2.50		
1 発破掘削量		C	A×B	m ³	175.3		
1 発破ずり量		D	C×ふえ率	〃	×1.90	333.1	
1 発破せん孔数		E	(A+IA)×1m ² 当りせん孔数	孔	×1.9	140	IA=インバート+中央集水管の断面積の60% =(5.42+0.62)×60%
さく岩機台数		F		台	3		
1 台当りせん孔数		G	E÷F	孔	47		
1 台当りせん孔長		H	(B+せん孔加算長)×G	M	×2.70	126.9	
の み 下 り		I		m/分	1.1		
<u>1発破ダンプトラック台数</u>		<u>J</u>	<u>D÷積載量 [m³/台]</u>	<u>台</u>	<u>÷14.6</u>	<u>22.8</u>	
掘	さく岩	準備		分	10		148
		せん孔	a	H÷I	〃	115	
		移動		(G-1)×0.5分	〃	23	
	爆破	装薬・爆破換気	b		〃	65	
削	ずり出し	準備		〃	15		149
		こそく	c		〃	20	
		積込み		<u>J×5.0分</u>	〃	<u>114</u>	
その他	測量・その他・損失	d		〃	50		
小 計		T ₁	a + b + c + d	〃	<u>412</u>		
吹付コンクリート		T ₂	6.0・V+10	〃	59		V=8.19 V=V ₁ +V ₂ V ₁ :吹付コンクリート V ₂ :鏡吹付コンクリート(上下半)
ロックボルト		T ₃	χ・N+10	〃	—		χ=1本当り打設時分 N=ボルト本数
支保工建込		T ₄		〃	—		
金網取付		T ₅	1.5・M	〃	—		
補助工法		T ₆		〃	—		
合 計		T	T ₁ +T ₂ +T ₃ +T ₄ +T ₅ +T ₆	〃	<u>471</u>		
1 方実作業時間		L		〃	540		
1 方発破回数		M	L÷T	回	1.15		
1 方進行		N	M×B	m	2.88		
1 箇月進行			N×23日/月×2方	〃	132.48		
S a y				〃	132		4捨5入

正

種 別		算 式		単 位	パ タ ー ン IV		摘 要
掘削断面積		A		m ²	70.13		インバートの発破対象断面積は、インバート+中央集水管の断面積の60%とする。
1 発破進行		B		M	2.50		
1 発破掘削量		C	A×B	m ³	175.3		
1 発破ずり量		D	C×ふえ率	〃	×1.90	333.1	
1 発破せん孔数		E	(A+IA)×1m ² 当りせん孔数	孔	×1.9	140	IA=インバート+中央集水管の断面積の60% =(5.42+0.62)×60%
さく岩機台数		F		台	3		
1 台当りせん孔数		G	E÷F	孔	47		
1 台当りせん孔長		H	(B+せん孔加算長)×G	M	×2.70	126.9	
の み 下 り		I		m/分	1.1		
掘	さく岩	準備		分	10		148
		せん孔	a	H÷I	〃	115	
		移動		(G-1)×0.5分	〃	23	
	爆破	装薬・爆破換気	b		〃	65	
削	ずり出し	準備		〃	15		148
		こそく	c		〃	20	
		積込み		<u>D×34分/100m³</u>	〃	<u>113</u>	
その他	測量・その他・損失	d		〃	50		
小 計		T ₁	a + b + c + d	〃	<u>411</u>		
吹付コンクリート		T ₂	6.0・V+10	〃	59		V=8.19 V=V ₁ +V ₂ V ₁ :吹付コンクリート V ₂ :鏡吹付コンクリート(上下半)
ロックボルト		T ₃	χ・N+10	〃	—		χ=1本当り打設時分 N=ボルト本数
支保工建込		T ₄		〃	—		
金網取付		T ₅	1.5・M	〃	—		
補助工法		T ₆		〃	—		
合 計		T	T ₁ +T ₂ +T ₃ +T ₄ +T ₅ +T ₆	〃	<u>470</u>		
1 方実作業時間		L		〃	540		
1 方発破回数		M	L÷T	回	1.15		
1 方進行		N	M×B	m	2.88		
1 箇月進行			N×23日/月×2方	〃	132.48		
S a y				〃	132		4捨5入

誤

ページ P58		参考-2 補助ベンチ付全断面工法サイクルタイム算出例（岩I（IN-1））							
種 別	算 式	単 位	パターン（IN-1）				補助ベンチパターンI 合 成 値	適 用	
			上 半		下 半				
掘削断面積	A	m ²	42.47		31.03		73.50		
1発破進行	B	m	1.00		1.00		1.00		
1発破掘削量	C A×B	m ³	42.5		31.0		73.5		
1発破ずり量	D C×ふえ率	〃	×1.45	61.6	×1.45	45.0	106.6		
1発破せん孔数	E A×1m ² 当りせん孔数	孔	×1.0	42	×0.7	22	64		
さく岩機台数	F	台					3		
1台当りせん孔数	G E÷F	孔					22		
1台当りせん孔長	H (B+せん孔加算長)×G	m					×1.05 23.1		
の み 下 り	I	m/分					1.4		
1発破ダンプトラック台数		J D÷積載量 [m³/台]					÷14.6 7.3		
掘	さく岩	準備	10		} 38		38		
		せん孔	a H÷I	17					
		移動	(G-1)×0.5分	11					
掘	爆破	装薬、爆破、換気	b				40		
削	ずり出し	準備	15		} 72		72		
		こそく	c	20					
		積込み	<u>J×5.0分/台</u>	37					
削	その他	測量・その他・損失	d				50		
小計		T ₁ a+b+c+d					<u>200</u>		
吹付コンクリート		T ₂ 6.0・V+10					55	V=7.55 V=V ₁ +V ₂ V ₁ :吹付コンクリート V ₂ :鏡吹付コンクリート(上半)	
ロックボルト		T ₃ χ・N+10					66	χ=1本当り打設時分 N=ボルト本数	
支保工建込		T ₄	e ₁	20	e ₂	20	40		
金網取付		T ₅ 1.5・M					—		
補助工法		T ₆					—		
合計		T T ₁ +T ₂ +T ₃ +T ₄ +T ₅ +T ₆					<u>361</u>		
1方実作業時間		L					540		
1方発破回数		M L÷T					1.50		
1方進行		N M×B					1.50		
1箇月進行		N×23日/月×2方					69.0		
S a y							69	4捨5入	

正

ページ P58		参考-2 補助ベンチ付全断面工法サイクルタイム算出例（岩I（IN-1））							
種 別	算 式	単 位	パターン（IN-1）				補助ベンチパターンI 合 成 値	適 用	
			上 半		下 半				
掘削断面積	A	m ²	42.47		31.03		73.50		
1発破進行	B	m	1.00		1.00		1.00		
1発破掘削量	C A×B	m ³	42.5		31.0		73.5		
1発破ずり量	D C×ふえ率	〃	×1.45	61.6	×1.45	45.0	106.6		
1発破せん孔数	E A×1m ² 当りせん孔数	孔	×1.0	42	×0.7	22	64		
さく岩機台数	F	台					3		
1台当りせん孔数	G E÷F	孔					22		
1台当りせん孔長	H (B+せん孔加算長)×G	m					×1.05 23.1		
の み 下 り	I	m/分					1.4		
掘	さく岩	準備	10		} 38		38		
		せん孔	a H÷I	17					
		移動	(G-1)×0.5分	11					
掘	爆破	装薬、爆破、換気	b				40		
削	ずり出し	準備	15		} 71		71		
		こそく	c	20					
		積込み	<u>D×34分/100m³</u>	36					
削	その他	測量・その他・損失	d				50		
小計		T ₁ a+b+c+d					<u>199</u>		
吹付コンクリート		T ₂ 6.0・V+10					55	V=7.55 V=V ₁ +V ₂ V ₁ :吹付コンクリート V ₂ :鏡吹付コンクリート(上半)	
ロックボルト		T ₃ χ・N+10					66	χ=1本当り打設時分 N=ボルト本数	
支保工建込		T ₄	e ₁	20	e ₂	20	40		
金網取付		T ₅ 1.5・M					—		
補助工法		T ₆					—		
合計		T T ₁ +T ₂ +T ₃ +T ₄ +T ₅ +T ₆					<u>360</u>		
1方実作業時間		L					540		
1方発破回数		M L÷T					1.50		
1方進行		N M×B					1.50		
1箇月進行		N×23日/月×2方					69.0		
S a y							69	4捨5入	

誤

ページ P59		参考-3 補助ベンチ付全断面工法サイクルタイム算出例（岩I（IN-2））						
種 別	算 式	単 位	パターン（IN-2）				補助ベンチパターンI 合 成 値	適 用
			上 半		下 半			
掘削断面積	A	m ²	42.07		30.87		72.94	
1発破進行	B	m	1.20		1.20		1.20	
1発破掘削量	C A×B	m ³	50.5		37.0		87.5	
1発破ずり量	D C×ふえ率	〃	×1.45	73.2	×1.45	53.7	126.9	
1発破せん孔数	E A×1m ² 当りせん孔数	孔	×1.0	42	×0.7	22	64	
さく岩機台数	F	台					3	
1台当りせん孔数	G E÷F	孔					22	
1台当りせん孔長	H (B+せん孔加算長)×G	m					×1.25 27.5	
の み 下 り	I	m/分					1.4	
1発破ダンプトラック台数		J D÷積載量 [m³/台]					÷14.6 8.7	
掘	さく岩	準備		10	} 41		41	
		せん孔	a H÷I	20				
		移動	(G-1)×0.5分	11				
爆破	装薬、爆破、換気	b					40	
削	ずり出し	準備		15	} 79		79	
		こそく	c	20				
		積込み	<u>J×5.0分/台</u>	44				
その他	測量・その他・損失	d					50	
小計		T ₁ a+b+c+d					210	
吹付コンクリート		T ₂ 6.0・V+10					58	V=8.01 V=V ₁ +V ₂ V ₁ :吹付コンクリート V ₂ :鏡吹付コンクリート(上半)
ロックボルト		T ₃ χ・N+10					50	χ=1本当り打設時分 N=ボルト本数
支保工建込		T ₄	e ₁	20	e ₂	—	20	
金網取付		T ₅ 1.5・M					—	
補助工法		T ₆					—	
合計		T T ₁ +T ₂ +T ₃ +T ₄ +T ₅ +T ₆					338	
1方実作業時間		L					540	
1方発破回数		M L÷T					1.60	
1方進行		N M×B					1.92	
1箇月進行		N×23日/月×2方					88.32	
Say							88	4捨5入

正

ページ P59		参考-3 補助ベンチ付全断面工法サイクルタイム算出例（岩I（IN-2））						
種 別	算 式	単 位	パターン（IN-2）				補助ベンチパターンI 合 成 値	適 用
			上 半		下 半			
掘削断面積	A	m ²	42.07		30.87		72.94	
1発破進行	B	m	1.20		1.20		1.20	
1発破掘削量	C A×B	m ³	50.5		37.0		87.5	
1発破ずり量	D C×ふえ率	〃	×1.45	73.2	×1.45	53.7	126.9	
1発破せん孔数	E A×1m ² 当りせん孔数	孔	×1.0	42	×0.7	22	64	
さく岩機台数	F	台					3	
1台当りせん孔数	G E÷F	孔					22	
1台当りせん孔長	H (B+せん孔加算長)×G	m					×1.25 27.5	
の み 下 り	I	m/分					1.4	
掘	さく岩	準備		10	} 41		41	
		せん孔	a H÷I	20				
		移動	(G-1)×0.5分	11				
爆破	装薬、爆破、換気	b					40	
削	ずり出し	準備		15	} 78		78	
		こそく	c	20				
		積込み	<u>D×34分/100m³</u>	43				
その他	測量・その他・損失	d					50	
小計		T ₁ a+b+c+d					209	
吹付コンクリート		T ₂ 6.0・V+10					58	V=8.01 V=V ₁ +V ₂ V ₁ :吹付コンクリート V ₂ :鏡吹付コンクリート(上半)
ロックボルト		T ₃ χ・N+10					50	χ=1本当り打設時分 N=ボルト本数
支保工建込		T ₄	e ₁	20	e ₂	—	20	
金網取付		T ₅ 1.5・M					—	
補助工法		T ₆					—	
合計		T T ₁ +T ₂ +T ₃ +T ₄ +T ₅ +T ₆					337	
1方実作業時間		L					540	
1方発破回数		M L÷T					1.60	
1方進行		N M×B					1.92	
1箇月進行		N×23日/月×2方					88.32	
Say							88	4捨5入

誤

ページ P60		参考-4 補助ベンチ付全断面工法サイクルタイム算出例（岩Ⅱ）									
種 別	算 式	単位	パ タ ー ン Ⅱ				補助ベンチ付Ⅱ 合 成 値	摘 要			
			上 半		下 半						
掘削断面積	A	m ²	40.06		30.20		70.26	下半インバートの発破対象断面積は、インバート+中央集水管の断面積の30%とする。			
1発破進行	B	m	1.50		1.50		1.50				
1発破掘削量	C	m ³	60.1		45.3		105.4				
1発破ずり量	D	m ³	96.2		72.5		168.7				
1発破せん孔数	E	孔	52		32		84	IA=インバート+中央集水管の断面積の30% =(6.80+0.62)×30%			
さく岩機台数	F	台					3				
1台当りせん孔数	G	孔					28				
1台当りせん孔長	H	m					44.8				
のみ下り	I	m/分					1.3				
1発破ダンプトラック台数		J	D÷積載量 [m ³ /台]				11.6				
掘削	さく岩	準備			10		58	58			
		せん孔	a	H÷I	34						
		移動	(G-1)×0.5分		14						
	爆破	装薬、爆破、換気	b					40			
	削	ずり出し	準備			15		93	93		
			こそく	c			20				
積込み			I×5.0分/台		58						
その他	測量・その他・損失	d					50				
小計		T ₁					241				
吹付コンクリート		T ₂	6.0・V+10				54	V=7.30 V=V ₁ +V ₂ V ₁ :吹付コンクリート V ₂ :鏡吹付コンクリート(上半)			
ロックボルト		T ₃	χ・N+10				50	χ=1本当り打設時分 N=ボルト本数			
支保工建込		T ₄			e ₁	—	e ₂	—			
金網取付		T ₅			—		—				
補助工法		T ₆			—		—				
合計		T	T ₁ +T ₂ +T ₃ +T ₄ +T ₅ +T ₆				345				
1方実作業時間		L					540				
1方発破回数		M	L÷T				1.57				
1方進行		N	M×B				2.36				
1箇月進行			N×23日/月×2方				108.56				
Say							109	4捨5入			

正

ページ P60		参考-4 補助ベンチ付全断面工法サイクルタイム算出例（岩Ⅱ）									
種 別	算 式	単位	パ タ ー ン Ⅱ				補助ベンチ付Ⅱ 合 成 値	摘 要			
			上 半		下 半						
掘削断面積	A	m ²	40.06		30.20		70.26	下半インバートの発破対象断面積は、インバート+中央集水管の断面積の30%とする。			
1発破進行	B	m	1.50		1.50		1.50				
1発破掘削量	C	m ³	60.1		45.3		105.4				
1発破ずり量	D	m ³	96.2		72.5		168.7				
1発破せん孔数	E	孔	52		32		84	IA=インバート+中央集水管の断面積の30% =(6.80+0.62)×30%			
さく岩機台数	F	台					3				
1台当りせん孔数	G	孔					28				
1台当りせん孔長	H	m					44.8				
のみ下り	I	m/分					1.3				
掘削	さく岩	準備			10		58	58			
		せん孔	a	H÷I	34						
		移動	(G-1)×0.5分		14						
	爆破	装薬、爆破、換気	b					40			
	削	ずり出し	準備			15		92	92		
			こそく	c			20				
積込み			D×34分/100m ³		57						
その他	測量・その他・損失	d					50				
小計		T ₁					240				
吹付コンクリート		T ₂	6.0・V+10				54	V=7.30 V=V ₁ +V ₂ V ₁ :吹付コンクリート V ₂ :鏡吹付コンクリート(上半)			
ロックボルト		T ₃	χ・N+10				50	χ=1本当り打設時分 N=ボルト本数			
支保工建込		T ₄			e ₁	—	e ₂	—			
金網取付		T ₅			—		—				
補助工法		T ₆			—		—				
合計		T	T ₁ +T ₂ +T ₃ +T ₄ +T ₅ +T ₆				344				
1方実作業時間		L					540				
1方発破回数		M	L÷T				1.57				
1方進行		N	M×B				2.36				
1箇月進行			N×23日/月×2方				108.56				
Say							109	4捨5入			

誤

種 別		算 式	単 位	パ タ ー ン III		補助ベンチパターンIII 合 成 値	摘 要	
				上 半	下 半			
掘削断面積	A		m ²	40.06	30.07	70.13		
1発破進行	B		m	2.00	2.00	2.00	下半インバートの発破対象断面積は、インバート+中央集水管の断面積の60%とする。	
1発破掘削量	C	A×B	m ³	80.1	60.1	140.2		
1発破ずり量	D	C×ふえ率	〃	×1.85 148.2	×1.85 111.2	259.4		
1発破せん孔数	E	(A+IA)×1m ² 当りせん孔数	孔	×1.7 68	×1.3 44	112	IA=インバート+中央集水管の断面積の60% =(5.42+0.62)×60%	
さく岩機台数	F		台			3		
1台当りせん孔数	G	E÷F	孔			38		
1台当りせん孔長	H	(B+せん孔加算長)×G	m			×2.15 81.7		
の み 下 り	I		m/分			1.2		
<u>1発破ダンプトラック台数</u>		<u>J</u>	<u>D÷積載量 [m³/台]</u>			<u>÷14.6 17.8</u>		
掘	さく岩	準備		10	} 97	97		
		せん孔	a	H÷I				68
		移動		(G-1)×0.5分				19
爆破	装薬、爆破、換気	b				60		
削	ずり出し	準備		15	} 124	124		
		こそく	c					20
		積込み		<u>J×5.0分/台</u>				<u>89</u>
その他	測量・その他・損失	d				50		
小 計		T ₁				<u>331</u>		
吹付コンクリート		T ₂	6.0・V+10			63	V=8.78 V=V ₁ +V ₂ V ₁ :吹付コンクリート V ₂ :鏡吹付コンクリート(上半)	
ロックボルト		T ₃	χ・N+10		-	-	χ=1本当り打設時分 N=ボルト本数	
支保工建込		T ₄		e ₁	-	e ₂		
金網取付		T ₅			-	-		
補助工法		T ₆			-	-		
合 計		T	T ₁ +T ₂ +T ₃ +T ₄ +T ₅ +T ₆			<u>394</u>		
1方実作業時間		L				540		
1方発破回数		M	L÷T			1.37		
1方進行		N	M×B			2.74		
1箇月進行			N×23日/月×2方			126.04		
S a y						126	4捨5入	

正

種 別		算 式	単 位	パ タ ー ン III		補助ベンチパターンIII 合 成 値	摘 要	
				上 半	下 半			
掘削断面積	A		m ²	40.06	30.07	70.13		
1発破進行	B		m	2.00	2.00	2.00	下半インバートの発破対象断面積は、インバート+中央集水管の断面積の60%とする。	
1発破掘削量	C	A×B	m ³	80.1	60.1	140.2		
1発破ずり量	D	C×ふえ率	〃	×1.85 148.2	×1.85 111.2	259.4		
1発破せん孔数	E	(A+IA)×1m ² 当りせん孔数	孔	×1.7 68	×1.3 44	112	IA=インバート+中央集水管の断面積の60% =(5.42+0.62)×60%	
さく岩機台数	F		台			3		
1台当りせん孔数	G	E÷F	孔			38		
1台当りせん孔長	H	(B+せん孔加算長)×G	m			×2.15 81.7		
の み 下 り	I		m/分			1.2		
掘	さく岩	準備		10	} 97	97		
		せん孔	a	H÷I				68
		移動		(G-1)×0.5分				19
爆破	装薬、爆破、換気	b				60		
削	ずり出し	準備		15	} 123	123		
		こそく	c					20
		積込み		<u>D×34分/100m³</u>				<u>88</u>
その他	測量・その他・損失	d				50		
小 計		T ₁				<u>330</u>		
吹付コンクリート		T ₂	6.0・V+10			63	V=8.78 V=V ₁ +V ₂ V ₁ :吹付コンクリート V ₂ :鏡吹付コンクリート(上半)	
ロックボルト		T ₃	χ・N+10		-	-	χ=1本当り打設時分 N=ボルト本数	
支保工建込		T ₄		e ₁	-	e ₂		
金網取付		T ₅			-	-		
補助工法		T ₆			-	-		
合 計		T	T ₁ +T ₂ +T ₃ +T ₄ +T ₅ +T ₆			<u>393</u>		
1方実作業時間		L				540		
1方発破回数		M	L÷T			1.37		
1方進行		N	M×B			2.74		
1箇月進行			N×23日/月×2方			126.04		
S a y						126	4捨5入	

誤

ページ	正	誤								
P55	<p>13-10-1 工事用電灯、電力設備費 通常一般の設備で坑口付近において受電する場合に適用するものとし、受電点が遠隔地にある場合は坑口付近までの配電設備負担金等の費用は別途加算するものとする。 トンネル1m当り工事用電灯、電力設備費(円/m) = E_{-1}/L_1 又は E_{-2}/L_1 上式中 L_1 : トンネル延長…………… (m)</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">トンネル延長</th> <th style="width: 80%;">工事用電灯、電力設備費 (万円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">0km～3.0km 未満</td> <td> $E_{-1} = 638 + 566 \times L_2 + 102 \times L_2^2 + 125 \times M$ $E_{-2} = 653 + 508 \times L_2 + 113 \times L_2^2 + 131 \times M$ </td> </tr> </tbody> </table> <p>上式中 E_{-1} : 岩 I L・岩 I LS、工事用電灯、電力設備…………… (万円) E_{-2} : 岩 I (IN-1・IN-2)・岩 II、工事用電灯、電力設備…………… (万円) L_2 : トンネル延長…………… (km) M : 掘削開始から覆工完了までの月数…………… (月) (注1) 斜坑・横坑に引き続いて本坑を施工する場合は、Lは本坑延長に斜坑・横坑の延長を合算し、Mは斜坑・横坑の掘削開始からとして上式にて算出する。 (注2) 撤去に伴うコンクリート処分費 (13 m³) は必要により別途計上する。</p>	トンネル延長	工事用電灯、電力設備費 (万円)	0km～3.0km 未満	$E_{-1} = 638 + 566 \times L_2 + 102 \times L_2^2 + 125 \times M$ $E_{-2} = 653 + 508 \times L_2 + 113 \times L_2^2 + 131 \times M$	<p>13-10-1 工事用電灯、電力設備費 通常一般の設備で坑口付近において受電する場合に適用するものとし、受電点が遠隔地にある場合は坑口付近までの配電設備負担金等の費用は別途加算するものとする。 トンネル1m当り工事用電灯、電力設備費(円/m) = E_{-1}/L_1 又は E_{-2}/L_1 上式中 L_1 : トンネル延長…………… (m)</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">トンネル延長</th> <th style="width: 80%;">工事用電灯、電力設備費 (万円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">0km～3.0km 未満</td> <td> $E_{-1} = 638 + 566 \times \underline{L} + 102 \times L_2^2 + 125 \times M$ $E_{-2} = 653 + 508 \times \underline{L} + 113 \times L_2^2 + 131 \times M$ </td> </tr> </tbody> </table> <p>上式中 E_{-1} : 岩 I L・岩 I LS、工事用電灯、電力設備…………… (万円) E_{-2} : 岩 I (IN-1・IN-2)・岩 II、工事用電灯、電力設備…………… (万円) L_2 : トンネル延長…………… (km) M : 掘削開始から覆工完了までの月数…………… (月) (注1) 斜坑・横坑に引き続いて本坑を施工する場合は、Lは本坑延長に斜坑・横坑の延長を合算し、Mは斜坑・横坑の掘削開始からとして上式にて算出する。 (注2) 撤去に伴うコンクリート処分費 (13 m³) は必要により別途計上する。</p>	トンネル延長	工事用電灯、電力設備費 (万円)	0km～3.0km 未満	$E_{-1} = 638 + 566 \times \underline{L} + 102 \times L_2^2 + 125 \times M$ $E_{-2} = 653 + 508 \times \underline{L} + 113 \times L_2^2 + 131 \times M$
トンネル延長	工事用電灯、電力設備費 (万円)									
0km～3.0km 未満	$E_{-1} = 638 + 566 \times L_2 + 102 \times L_2^2 + 125 \times M$ $E_{-2} = 653 + 508 \times L_2 + 113 \times L_2^2 + 131 \times M$									
トンネル延長	工事用電灯、電力設備費 (万円)									
0km～3.0km 未満	$E_{-1} = 638 + 566 \times \underline{L} + 102 \times L_2^2 + 125 \times M$ $E_{-2} = 653 + 508 \times \underline{L} + 113 \times L_2^2 + 131 \times M$									

ページ	正	誤								
P63	<p>12-10-1 工事中電灯、電力設備費</p> <p>通常一般の設備で坑口付近において受電する場合に適用するものとして、受電点が遠隔地にある場合は坑口付近までの配電設備負担金等の費用は別途加算するものとする。</p> <p>トンネル1m当り工事中電灯、電力設備費（円/m） $= E / L_1$</p> <p>上式中 L_1 : トンネル延長…………… (m)</p> <table border="1" data-bbox="427 537 1389 617"> <thead> <tr> <th>トンネル延長</th> <th>工事中電灯、電力設備費（万円）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3.0km～6.0kmまで</td> <td>$E = 676 + 343 \times L_2 + 119 \times L_2^2 + 146 \times M$</td> </tr> </tbody> </table> <p>上式中 E : 工事中電灯、電力設備…………… (万円) L_2 : トンネル延長…………… (km) M : 掘削開始から覆工完了までの月数…………… (月)</p> <p>(注1) 斜坑・横坑に引き続いて本坑を施工する場合は、Lは本坑延長に斜坑・横坑の延長を合算し、Mは斜坑・横坑の掘削開始からとして上式にて算出する。 (注2) 撤去に伴うコンクリート処分費（13 m³）は必要により別途計上する。</p>	トンネル延長	工事中電灯、電力設備費（万円）	3.0km～6.0kmまで	$E = 676 + 343 \times L_2 + 119 \times L_2^2 + 146 \times M$	<p>12-10-1 工事中電灯、電力設備費</p> <p>通常一般の設備で坑口付近において受電する場合に適用するものとして、受電点が遠隔地にある場合は坑口付近までの配電設備負担金等の費用は別途加算するものとする。</p> <p>トンネル1m当り工事中電灯、電力設備費（円/m） $= E / L$</p> <p>上式中 L : トンネル延長…………… (m)</p> <table border="1" data-bbox="1685 537 2647 617"> <thead> <tr> <th>トンネル延長</th> <th>工事中電灯、電力設備費（万円）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3.0km～6.0kmまで</td> <td>$E = 676 + 343 \times L + 119 \times L^2 + 146 \times M$</td> </tr> </tbody> </table> <p>上式中 E : 工事中電灯、電力設備…………… (万円) L : トンネル延長…………… (km) M : 掘削開始から覆工完了までの月数…………… (月)</p> <p>(注1) 斜坑・横坑に引き続いて本坑を施工する場合は、Lは本坑延長に斜坑・横坑の延長を合算し、Mは斜坑・横坑の掘削開始からとして上式にて算出する。 (注2) 撤去に伴うコンクリート処分費（13 m³）は必要により別途計上する。</p>	トンネル延長	工事中電灯、電力設備費（万円）	3.0km～6.0kmまで	$E = 676 + 343 \times L + 119 \times L^2 + 146 \times M$
トンネル延長	工事中電灯、電力設備費（万円）									
3.0km～6.0kmまで	$E = 676 + 343 \times L_2 + 119 \times L_2^2 + 146 \times M$									
トンネル延長	工事中電灯、電力設備費（万円）									
3.0km～6.0kmまで	$E = 676 + 343 \times L + 119 \times L^2 + 146 \times M$									